



祐介の目

No.157

大田祐介 (福山市議会議員)

頑張れ！西田英範

先の衆院選の投票率全国平均は54%、全国最低は広島県の48%、県内最低は福山市の45%であった。つまり福山市は日本一投票率の低いまちだ。来年7月には参院選があるが、今から投票率が心配なので立候補予定の西田英範さんに関するエピソードを紹介したい。

3年前の参議院再選挙に自民党から経済産業省出身の西田さんが立候補した。結果は立憲民主の宮口候補に惜敗したが、広島県全域が選挙区であるから西田家は総動員された。私はお母さんの靖子さんと共に挨拶回りをすることになり、福山駅で待ち合わせた。まずは駅裏の備後護国神社で必勝祈願をしましょうと言えば、偶然にも「私の叔父もレイテで戦死したんです」。叔父さんは作木村出身の谷岡聖誉軍医であり、広島県の社会援護課から軍歴証明を取り寄せ、第26師団(泉兵团)独立歩兵第12連隊所属と判明した。

泉兵团の遺族会の世話役の重松正一さんに連絡を取り、調査を依頼した。その結果、昭和19年11月10日に12連隊は第4次の援軍としてレイテ島に逆上陸し、急峻なジャングルを踏み分け進軍して米軍に占領された飛行場を一時的に奪還した。その後撤退するが、その道は白骨街道と呼ばれた。靖子さんはお盆に作木に帰り、親戚に報告したのだらう。靖子さんから私に電話があったのだ。それが誤操作らしく電話の向こうで靖子さんと親戚の「○○さんが生きていたらさぞ喜んだらうな」という会話が聞こえてきた。谷岡軍医の御霊はレイテに詳しい私と靖子さんを引き合わせて自身の存在を西田さんに知らしめ、靖子さんの携帯を通じて私に御礼を伝えたのだらう。

その後、西田さんはレイテ戦について勉強した。あの戦いはマッカーサー率いる米軍との天王山の戦い、まさに総力戦であり、その延長上に戦後の日本の占領政策があり、現在の日米同盟があることを知った。歴史を知らない国会議員は決して未来を語る事もできない。西田さんは大叔父の谷岡軍医より指南を受けたのだから頑張つて欲しい。